

調査報告

メディアを学ぶ学生の芸術鑑賞行動

～「アートマネジメント」教育を通して～

Analysis of Behaviour Survey of Artistic Activities by Students of Media Course

- Through Education of “Arts Management Studies” -

藤井克
Masaru Fujii

1. はじめに

あらゆる芸術は創造者の元で生産されただけでは芸術とは言えない。享受者である鑑賞者の元へ届いて初めて価値が生まれる。そして創造者と鑑賞者の間に入り、芸術を支え、感動を伝える仕事がアートマネジメントである。アートマネジメントにおいて、舞台芸術・美術などの芸術活動の現状を把握し、将来動向を予測するためには、供給側である芸術家・演奏家の実情把握だけでなく、需要側である鑑賞者の実情把握も必要になる。

筆者が2009年に本学メディアプロデュース学部専門教科「アートマネジメント」講師として着任して以来、年度として4年を経過した。その間の履修生はのべ620人にのぼる[表1]¹⁾。最初の戸惑いは、本学の学生がそもそもアートに対してどの程度のアクセスを有するか、見当が付かなかったことであった。例えば素材としてクラシック音楽コンサートの企画・制作を取り上げる場合、コンサートの体験があればある程度会場内の雰囲気やプログラム構成などに実感が持てる筈である。アートマネジメントは座学ではない。実演の享受なくして文献の講読のみによっては学問としての意味をなさない。本学の学生（履修生）の芸術需要の実態を把握し、そのレベルに合わせた講義の必要に迫られた。そこで現状を確認するために、芸術に関する動向を客観的に把握し計量的に分析することで一次資料とできるのではないかと考えるに至った。

2. 調査方法

調査は授業時間内に出席カードを兼ねて実施した。従って全て記名式である。毎時アンケートの形で質問を出し、それに対し授業の感想、質問などと合わせて回答する形式である。アンケートは毎週集計し、翌週の授業時間に数値のみ学生に提示した。このようなアンケート調査は学生には珍しいようで、自分の立ち位置がわかることも相まって興味を持って受け入れられたようである。但し出席を兼ねた調査であるが故に「代返」による不正確なデータが集積されることも否めない。データの累積により母集団を増やすことで誤差を小さくする以外回避は難しいと言える。

なお、学生の芸術鑑賞行動を規定する要因の一つに「親の影響」は少なくない。文化資本として

の親の趣味、学歴、年収などは子どもの生育環境を大きく左右するが、今回の調査は授業内で記名式で行ったため、親の年収などは書きにくいだろうと考え、敢えて問うことはしていない。あくまで学生本人の趣味趣向、行動を調べたものである。

3. 先行研究

全国民を対象としたものに1976年以降5年毎に実施される総理府（内閣府）・総務省による「社会生活基本調査」がある。また芸術文化に関する統計調査は1987、1996、2003年に総理府（内閣府）による「文化に関する世論調査」、1993、1999年に文化庁「国民の文化に関する意識調査」がある。但しこれらは学生を対象としたものではないため、ある特定の年齢層だけを抽出することが困難である。

先行する同種の調査は有馬らによる「現代青年の芸術意識と芸術活動調査」³⁾に詳しい。1988年以来、ほぼ5年毎に実施される統計調査は実演芸術の詳細なジャンル区分のみならず、学生の居住地域による差異や、CD、ビデオなどの視聴覚メディアによる鑑賞も範疇に入れている。また文化資本としての家庭環境も問うている。本調査と同様の調査を本学においても実施することで全国的な位置づけが可能となるが、残念ながら質問項目が膨大であり、授業時間内に記入させることは難しく、集計にも相応の時間がかかることが予想されたため見送らざるを得なかった。

4. 調査の概要

調査項目は大別すると①芸術文化への興味・関心に関する項目、②ポピュラー音楽を含む芸術文化の鑑賞経験に関する項目（ソフト依存）、③同じく鑑賞経験の場所・会場に関する項目（ハード依存）、④回答者の育成に関わる稽古事の経験と現在の意識に関する項目、の4つから構成されている。

対象とした芸術の領域は文化芸術振興基本法による分類を用いた。学生が容易に考えられる芸術全般（音楽、演劇、舞踊、美術等）の他に、メディア芸術、伝統芸能、生活芸術、生活娯楽、文化財が含まれる。

調査の対象は「アートマネジメント」履修生に限られるが、他学部履修によって現代社会学部／メディアプロデュース学部以外の学生も一部含まれる。1年次、2年次が中心となり、構成比としては偏ったものとなるが、全学調査ではないため、母集団の復元乗率に基づく補正の必要はないと考える。

5. 省察

5-1. 興味のあるアートジャンル

選択肢は文化芸術振興基本法第8条から第13条に至る分類を用いた。分野ごとに7つに分け、28種の細目を示した。例えば分類項目の「伝統芸能」は、細目である「雅楽」「能楽」「文楽」「歌

舞伎」のいずれか 1 種目を選んだ人数の総数となる。「音楽」という選択肢には、クラシック音楽とポピュラー音楽両方を含んでいる。

調査結果は[表 2]に示したように、男女別に見ると全般に女子の方が男子よりも芸術への関心が高いことがわかる。男女別の関心領域の上位 5 種を[表 3]に示した。男女とも芸術全般、メディア芸術に高い関心があることが伺える。音楽と映画は同位であるが 3 位以下に性差が見られる。とりわけ大きな差が開いた選択肢は生活芸術である。女子 16.7%に対し、男子は 4.1%にとどまり、特に茶道（お茶）・華道（お華）を選択した男子は皆無であった。なお「歌唱」に 5.2%の学生が関心を示しているが、伝統芸能における「歌唱」とは長唄、小唄、端唄などを指すものであるため、おそらくポピュラーにおけるボーカル曲と勘違いして選択したと思われる。「浪曲」を選択した学生が一人もいないことからそれは推測される。

今回の調査ではメディアプロデュース学部の学生を主たる対象としたため「メディア芸術」への関心が高いことは想定されたが、例えば文学部国文学科の学生であれば伝統芸能への関心や鑑賞経験値が増えるという予測は立てられるだろう。

5-2. 芸術の表現形態（ソフト）別にみる経験値

「過去何回鑑賞したことがあるか」という設問で、実演芸術鑑賞（いわゆる生）の過去を通算した回数を尋ねた[表 4]。CD/DVD/配信等によるメディア鑑賞は含まない。ジャンルは下記 7 ジャンルにわたる。

- ①クラシック音楽（オペラ、オーケストラ、吹奏楽、合唱、リサイタル等）
- ②ポピュラー音楽（非クラシックのコンサート、ライブ）
- ③美術展（企画展、常設展、個展、グループ展等）
- ④バレエ・舞踊（クラシックバレエ、モダンバレエ、コンテンポラリーダンス等）
- ⑤演劇（商業演劇、小劇場、学校公演、児童演劇等）
- ⑥歌舞伎（御園座、地歌舞伎、子ども歌舞伎、むすめ歌舞伎等）
- ⑦能・狂言

総数としてはクラシック、ポピュラー、美術、演劇がともに平均 4 回以上であるのに対し、バレエ、歌舞伎、能・狂言は平均 1 回以下にとどまっている。学生にこの 3 種の芸術は遠い存在であることがわかる。とりわけ男子のバレエ・舞踊は鑑賞経験「0 回」が 84.0%に達しており、この数字は全体の最高値である。男女別では全体に女子の方が高い鑑賞機会を示しているが、特に性差が見られたのはポピュラー音楽であった。平均の数値で見ると女子 7.46 回に対し、男子は 3.22 回で、その差は 4.24 回となる。次いで演劇の 3.93 回、クラシック音楽の 2.69 回と続く。ポピュラー音楽に関しては「誰のコンサート（ライブ）に行ったか」という質問を自由記入の形で表記させた所、女子は SMAP などのジャニーズ系アイドルのライブに多く出かけていることがわかった。また演劇も劇団四季などのミュージカルの人気は女子に高かった。

一方で伝統芸能は男女ともに低い数値にとどまり、歌舞伎、能・狂言とも「0 回」が 7 割を超えて

いる。折橋・法岡(1988)は「芸術の受け手の層が、誰でも即座に理解できる度合いの高いものの鑑賞層と、学習による構造理解を必要とする度合いの高いものの鑑賞層に分裂している」と論じ、この要因として「学歴が大きな比重を占めている」と分析しているが、本調査においても同様の結論が導かれよう。ある程度の事前学習が求められる芸能は敬遠される傾向にあると言えるが、適切な指導があれば「食わず嫌い」を解消できるとも言えるだろう。

5-3. 芸術の場所（ハード）別にみる経験値

全問同様、過去の全ての回数を尋ねる質問である[表5]。但し「映画館」のみ、回数が多いと想定したため「過去1年間の経験値」とした。質問は下記の7会場であり、この地域におけるメイン・プレゼンターとも言える場所である。

- ①愛知県芸術劇場大ホール（オペラ、コンサートを含む全てのイベント）
- ②愛知県芸術劇場コンサートホール
- ③愛知県美術館
- ④名古屋市美術館
- ⑤ナゴヤドーム（野球、コンサート、展示会等全て含む）
- ⑥映画館（過去1年間で映画館で映画を見た回数）
- ⑦ライブハウス（ブルーノート、ボトムライン、ELL、Zepp等）

ソフトの質問と同様であるが、学生の記憶に基づいた回答であるため、学校の団体鑑賞などで実際に美術館を訪れたことがあるにも関わらず、記憶に残っていないため「経験なし」と答えている可能性も留意する必要がある。例えば名古屋市美術館は名古屋市教育委員会所轄の小学校であれば必ず一度は団体鑑賞で訪れている。

調査結果を見ると、①から③までの愛知県芸術劇場、愛知県美術館の3館はいずれも平均1回に達していない。名古屋市美術館で1.2回である。これに対しナゴヤドーム4.7回、映画6.7回、ライブハウス4.7回と大きな差が付いている。後者3施設は狭義に芸術施設（あるいは芸術鑑賞機会）とは言えないかもしれないが、前者4施設に比べて敷居が低いと感じているのは事実であろう。なお本設問においては男女差はほとんどなかった。唯一ナゴヤドームが男子平均6.32回、女子平均4.14回でその差2.18回であった。

なお舞台芸術施設とスタティックな芸術鑑賞施設である美術館が並列しているが、鑑賞機会としては美術がやや低い程度で、その差はほとんどなかった。

5-4. ボランティア経験（芸術に限らず）

特定非営利活動促進法の成立(1998)以来、行政の公共的役割を一部民間が肩代わりするいわゆるNPO団体の台頭が目覚ましいが、ボランティア活動などの社会貢献活動に学生が関わることが積極的に勧められるようになってきた。具体的な活動経験を自由記入の形で書かせ、それをまとめたものが[表6]である。全体として74.5%の高い経験値を示した。ここでも男女差があり、男子64.4%に

対し女子 77.6%と 10 ポイント以上の差が付いている。ボランティアの内訳は清掃活動・ゴミ拾いが圧倒的で、次いで慰問、募金と続く。但し留意すべきは「掃除を学校でやられた」と付記する学生が少なくなく、清掃活動が積極的自主的な体験とはなっていないことが推測できる。その意味では部活・サークル単位での高齢者や児童施設への慰問の方がより本来的な意味でのボランティアに近いのかもしれない。

なお本設問は、近年 NPO 団体の中でも特に「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」（第 2 条別表 6 項）における芸術領域において活動する「アート NPO」と呼ばれる団体の増加が著しいため、学生に何らかの公共的な芸術活動に加わったことがあるかを尋ねるものであった。しかし残念ながらアート NPO への参画を記した回答はなかった。

5-5. 稽古事（習い事）①

芸術鑑賞を誘発する要因には様々な影響が考えられるが、生育環境（文化資本）に影響を与える「お稽古事（習い事）」について質問した[表 7]。子どもの頃に習っていた習い事（今習っているものも含む）を自由記入の形で表記させた。その上で回答を便宜上「芸術系」「運動系」「教養系」に分類した。結果は「ピアノ」「水泳」「習字書道」の 3 種が他を圧倒して大きな比重を占めた。順位において男女差はほとんどなかったが、男子は全般に低い数字となっている。女子が最も多く習っていたものは「ピアノ」で 37.6%。男子は 3.5%で、約 10 分の 1 となっている。

なお「その他」は少数意見である。お茶、お華、着付け、テニス、ゴルフ、乗馬、剣道、柔道、空手、少林寺、ギター、ドラム、電子オルガンなどが挙げられる。種類は多いが、いずれも 1 桁程度であった。

5-6. 稽古事（習い事）②

自分の子どもが生まれたいお稽古ごとについて尋ねた[表 8]。結果的に反省を踏まえた形になり、自分にとってその習い事が有意義であったかを問うものとなっている。結果は全般に数値は低くなるが、上位は「ピアノ」「水泳」「習字書道」の 3 種で変わらなかった。また順位において男女差はほとんどなかった。クロス集計の結果は後述するが、「習っていた」から「習わせたい」へは数字上は激減する。即ち習い事にあまり価値を見出せなかった回答者が少なくないことを表している。

6. 鑑賞者開発における稽古事

育成時におけるお稽古ごとのクロス集計は様々な試みができるが、ここでは経験した稽古事分野別芸術鑑賞経験率（[表 9]）と、さらに詳しく見るため「ピアノ」と「お絵かき（絵画教室）」を抽出した（[表 10]～[表 13]）。男女別に見ると全分野に渡り女子の鑑賞経験率が高く、会場別に見てもナゴヤドーム、映画、ライブハウス以外は女子の方が上回っている。また稽古事分野別に見ると、いずれの分野においてもその差異は小さく、稽古事分野が芸術鑑賞のジャンルを選択す

るのではないかという予測を外す形となった。

ピアノ（お絵かき）を習っていた回答者が自分の子供にもピアノ（お絵かき）を習わせたいと思っているか、また本人の鑑賞経験について集計すると、ピアノ・お絵かきともほぼ同じ傾向であることがわかった。

①当該芸術への興味・関心は、習っていた回答者の方が高い。

②実際の鑑賞経験（行動）は、習っていなかった回答者の方が高い。

注意すべきは②の視点で、即ち幼少期における稽古事が鑑賞者の育成には結びついていないことがわかる。稽古事によってその芸術が嫌いになる、もしくは食傷してしまうのではないかという推測が成り立つ。一方で稽古事が全般に演奏（表現）技術の習得に偏り、鑑賞・評価という視点での教育がなされていないこともあるだろう。ここでは稽古事が結果的に鑑賞率を下げるという問題点を指摘するに留めたい。

7. まとめ

本調査で学生がどのように実演芸術を享受しているか、その一端が明らかになった。多様化する余暇活動の中で、時間、経済、エネルギーを必要とする芸術鑑賞は、家庭環境を含めた個人的な属性が影響を及ぼしている。本調査では触れることができなかったが、現代の学生はインターネットなどの普及を直接に享受しているマルチメディア世代である。即ち芸術鑑賞においても実演芸術のみならず、CD、DVD、配信などを自在に駆使してライブ鑑賞とメディア鑑賞を横断している。特にメディア鑑賞は供給側にとっても学生に代表される若者は主要な購買層になっている。またアートNPOの台頭を見るように、文化政策において芸術は教育や福祉に領域を拡大している。現代の学生は芸術の新しい担い手として、クリエイティブ産業、創造都市と言った新しい概念の役割も期待されている。大学教育においても今後どのようにアートマネジメントをカリキュラムに加えていくか、そのために更なる調査の必要がある。

8. おわりに

本調査は授業内での出欠を兼ねるという有意標本による調査であった。また本稿での分析も基礎的なクロス集計に基づく予備的なものにとどまっている。今後は調査の継続とともに、5年後あるいは10年後と言った長期インターバルを経て学生の意識構造の変化を検証する試みも求められるだろう。一方で芸術鑑賞と競合する他の余暇活動との関係、また本調査では触れることができなかった、ライブ鑑賞に変わって台頭するメディア鑑賞についても調査の余地がある。社会構造の推移も考慮に入れた分析のためには、学生の家庭環境や居住地域、可処分所得の現況も含める必要があり、理論仮設の整理と共に、多変量解析手法を用いた詳細な分析が大きな課題として残ったと言えるだろう。

1) アンケート用紙回収数。[表1]（履修登録者数）との差異は、仮登録期間中にアンケートに答えた学生や履修登録せずに聴講していた学生などを含むことから。

- 2) 本学では2010年度より6学部から8学部へ学部の編成が行われた。現代社会学部からメディアプロデュース学部へ移行しているため2010年度を境に両学部で人数の増減が見られるのはそのためである。学部再編後も両学部においてカリキュラム上の継続性は保たれている。
- 3) 『わが国の芸術活動の動向予測に関する基礎研究』（研究代表者：三善晃）、昭和61～63年度科学研究費補助金（特定研究（1）研究課題番号62124014）、以下参考文献参照。

参考文献

- 大久保恒治／松田芳郎：「現代青年の芸術意識と芸術行動調査」による若者の芸術への参加形態』『第5回日本統計学会全国大会論文集』1987、pp11-12
- 折橋徹彦／法岡淑子：「若者と芸術活動」『統計』第39巻第11号、1988、pp26-34
- 三善晃編：『わが国の芸術活動の動向予測に関する基礎研究』、昭和62年度科学研究費補助金（特定研究（1）研究課題番号62124014）研究成果報告書（総論編・資料編）、1988。
- 折橋徹彦／法岡（杉江）淑子：「現代青年の芸術意識と芸術活動(1)」『関東学院大学文学部紀要』第56号1990、pp3-26
- 折橋徹彦／法岡（杉江）淑子：「現代青年の芸術意識と芸術活動(2)」『関東学院大学文学部紀要』第58号1990、pp233-275
- 永山貞則編：『わが国文化・芸術情報の体系化と統計調査方法の研究』、平成3年度科学研究費補助金（総合研究（A）研究課題番号02305009）研究成果報告書、1992。
- 文部省編：『わが国の文教政策（平成5年度版）』、大蔵省印刷局、1993
- 池上惇／山田浩之編：『文化経済学を学ぶ人のために』、世界思想社、1993
- 有馬昌宏／法岡淑子／折橋徹彦：「大学生の芸術需要活動の実態」『世界劇場会議'93発表論文集』1993
- 松田芳郎：「実演芸術 データで見ると」、季刊文化経済学会、Vol. 2、No. 2、pp11-12、1993。
- 有馬昌宏：「現代学生の演奏・舞台芸術の鑑賞構造」『商大論集』45巻5号1995、pp53-79
- 有馬昌宏／法岡淑子／折橋徹彦／松田芳郎：「現代学生の実演芸術需要の実態と構造」『文化経済学論文集1』1995、pp27-34
- 有馬昌宏／法岡（杉江）淑子／折橋徹彦／松田芳郎：「視覚芸術需要の実態と構造」『文化経済学論文集2』1996、pp81-86
- 法岡淑子／有馬昌宏／折橋徹彦／松田芳郎：「現代学生の主体的芸術活動経歴と芸術の需要形成」『文化経済学会論文集第2号』、1996
- 芸能文化情報センター編：『芸能白書1997』、芸団協出版部、1997
- 松田芳郎編：「統計情報活用のフロンティアの拡大の総括的研究—マイクロデータによる社会構造解析—」平成8年度科学研究費補助金（重点領域研究（I）研究課題番号08209105）研究成果報告書、1997
- 有馬昌宏：「若者の芸術活動から探る新しい芸術社会像」、佐々木晃彦編『芸術経営学を学ぶ人のために』第1部第4章、世界思想社、1997
- 総理府広報室：「文化」『月刊世論調査』平成9年4月号、1997、pp2-72
- 有馬昌宏／古賀広志／澤村正信／杉江淑子／大久保恒治／折橋徹彦／松田芳郎：「学生調査による芸術需

- 要統計データベースの構築と時系列分析の可能性」『商大論集』1998、pp175-193
- 有馬昌宏／杉江淑子：「学生は芸術をどのように鑑賞しているか」『統計』第49巻第12号、1998、pp19-24
- 杉江淑子編：「実演芸術の需要の実態と構造に関する統計情報の収集と時系列分析」平成9年度科学研究費補助金（重点領域研究）公募研究成果報告書、滋賀大学、1998
- 杉江淑子編：「実演芸術の需要の実態と構造に関する統計情報の収集と時系列分析」平成10年度科学研究費補助金（特定領域研究A）公募研究成果報告書、滋賀大学、1999
- 芸能文化情報センター編：『芸能白書1999—数字に見る日本の芸能』、芸団協出版部、1999
- 有馬昌宏／杉江淑子／古賀広志：「学生の実演芸術需要活動とその地域間変動」松田芳郎・垂水共之・近藤健文編著『講座ミクロ統計分析第3巻 地域社会経済の構造』日本評論社、2000、pp359-384
- 伊藤裕夫／小林真理／中川幾郎／他：『新訂アーツ・マネジメント概論』水曜社、2002
- 有馬昌宏、2002、「文化経済学における実証研究の動向と課題」日本文化経済学会『文化経済学』第3巻第1号、11-16.
- 周防折雄：「芸術・文化政策立案のための統計指標の開発と体系化に関する研究」平成13年度～平成15年度科学研究費補助金（特別研究促進費(1)）研究成果報告書、神戸商科大学、2004
- 有馬昌宏：「学生の芸術文化に対する意識構造とその変化」『文化経済学会<日本>年次予稿集2006』2006、pp20-23
- 有馬昌宏：「消費実態から見た芸術・文化の需要構造」『文化経済学』第5巻第1号、2006、pp49-60
- 勝浦正樹、2006a、「文化芸術活動への参加の2項回帰モデルによる実証分析」『文化経済学会<日本>年次大会予稿集2006』、16-19.
- 勝浦正樹、2006b、「文化・芸術の実証研究への統計分析の応用可能性」日本文化経済学会『文化経済学』第5巻第1号、17-25.
- 片岡栄美：「芸術文化消費と象徴資本の社会学—ブルデュー理論からみた日本文化の構造と特徴—」日本文化経済学会『文化経済学』第6巻第1号、2007、pp13-25.
- 有馬昌宏：「学生の実演芸術の鑑賞行動を規定する要因についての基礎的分析」『文化経済学会<日本>年次予稿集2008』2008、
- 有馬昌宏：「消費支出と行動実態から見た芸術・文化の需要構造」『季刊家計経済研究』No. 79、pp. 13-29、2008
- 有馬昌宏：「全国学生調査に基づく実演芸術鑑賞行動の規定要因の分析」『2008 SASユーザー総会 アカデミア/テクノロジー&ソリューションセッション 論文集』、pp. 93-102、2008
- 福永世征／有馬昌宏：「学生の芸術文化鑑賞活動の現状 —第5回学生調査の10%抽出データの分析から—」、2009
- 北九州市企画文化局：「文化や芸術に関する市民意識調査報告書」平成21年、2009
- 加藤優希／有馬昌宏：「学生の実演芸術鑑賞行動の規定要因に関する基礎的研究—過去25年間の学生調査データベースの構築と分析を通して—」、『文化経済学会<日本>年次大会予稿集：2010』、pp. 12-13、2010

加藤優希／有馬昌宏：「5回の学生調査から探る実演芸術鑑賞行動パターンとその規定要因～学生調査データベースの構築と分析を通して～」、『2010 SASユーザー総会 アカデミア／テクノロジー&ソリューションセッション 論文集』，pp. 387-395，2010

有馬昌宏：「学生の実演芸術鑑賞の現状と20年間の変化」，『文化経済学会<日本>年次大会予稿集：2012』2012

〔表1〕 学部別履修登録者数²⁾

		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		合計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
現代社会学部	現代社会学科	119	84	23	53	9	4	2	2	296
コミュニケーション学部	コミュニケーション心理学科	1		2	1					4
文化創造学部	多元文化専攻	1				1				2
	表現文化専攻				1					1
ビジネス学部	ビジネス学科	1			1					2
文学部	図書館情報学科			1	3					4
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科			45	34	70	43	81		273
人間情報学部	人間情報学科						1		1	2
									総計	584

〔表2〕 芸術ジャンルによる興味・関心

	全体			男子			女子		
	人数	比率	順位	人数	比率	順位	人数	比率	順位
	493			98			395		
芸術全般	387	78.50%		66	67.3%		321	81.3%	
1. 文学	44	8.92%	10	6	6.1%	11	38	9.6%	10
2. 音楽	260	52.74%	1	46	46.9%	1	214	54.2%	1
3. 美術	111	22.52%	7	15	15.3%	6	96	24.3%	5
4. 写真	120	24.34%	4	14	14.3%	7	106	26.8%	4
5. 演劇	134	27.18%	3	16	16.3%	5	118	29.9%	3
6. 舞踊	32	6.49%	13	2	2.0%	19	30	7.6%	12
メディア芸術	351	71.20%		67	68.4%		284	71.9%	
7. 映画	185	37.53%	2	35	35.7%	2	150	38.0%	2
8. 漫画	118	23.94%	5	26	26.5%	4	92	23.3%	6
9. アニメ	118	23.94%	5	29	29.6%	3	89	22.5%	7
10. CG	60	12.17%	9	12	12.2%	8	48	12.2%	9
伝統芸能	34	6.90%		1	1.0%		33	8.4%	
11. 雅楽	4	0.81%	26	0	0.0%	25	4	1.0%	26
12. 能楽	8	1.62%	24	0	0.0%	25	8	2.0%	21
13. 文楽	3	0.61%	27	1	1.0%	20	2	0.5%	27
14. 歌舞伎	16	3.25%	19	1	1.0%	20	15	3.8%	17
芸能全般	128	25.96%		26	26.5%		102	25.8%	
15. 講談	1	0.20%	28	1	1.0%	20	0	0.0%	28
16. 落語	20	4.06%	16	4	4.1%	14	16	4.1%	16
17. 浪曲	0	0.00%	29	0	0.0%	25	0	0.0%	28
18. 漫談	18	3.65%	18	4	4.1%	14	14	3.5%	20
19. 漫才	61	12.37%	8	10	10.2%	9	51	12.9%	8
20. 歌唱	37	7.51%	11	7	7.1%	10	30	7.6%	12
生活芸術	70	14.20%		4	4.1%		66	16.7%	
21. 茶道	26	5.27%	14	0	0.0%	25	26	6.6%	14
22. 華道	24	4.87%	15	0	0.0%	25	24	6.1%	15
23. 書道	37	7.51%	11	4	4.1%	14	33	8.4%	11
生活娯楽	27	5.48%		11	11.2%		16	4.1%	
24. 囲碁	14	2.84%	21	6	6.1%	11	8	2.0%	21
25. 将棋	8	1.62%	24	3	3.1%	17	5	1.3%	25
文化財	41	8.32%		9	9.2%		32	8.1%	
26. 有形文化財	16	3.25%	19	1	1.0%	20	15	3.8%	17
27. 無形文化財	9	1.83%	23	1	1.0%	20	8	2.0%	21
28. 保存技術	11	2.23%	22	3	3.1%	17	8	2.0%	21
その他	20	4.06%	16	5	5.1%	13	15	3.8%	17

〔表3〕 男女別にみる関心領域の上位5種

	全体	男子	女子
1	音楽	音楽	音楽
2	映画	映画	映画
3	演劇	アニメ	演劇
4	写真	漫画	写真
5	漫画 アニメ	演劇	美術

[表4] 芸術鑑賞経験値/ソフト依存

	人数 (人)	鑑賞回数(人)			平均 (回)	比率(%)			
		0回	1~5回	6回以上		0回	1~5回	6回以上	
クラシック音楽	総数	505	128	281	96	4.67	25.3%	55.6%	19.0%
	男子	108	45	55	8	2.56	41.7%	50.9%	7.4%
	女子	397	83	226	88	5.25	20.9%	56.9%	22.2%
ポピュラー音楽	総数	413	112	178	123	6.46	27.1%	43.1%	29.8%
	男子	97	40	40	17	3.22	41.2%	41.2%	17.5%
	女子	316	72	138	106	7.46	22.8%	43.7%	33.5%
美術展	総数	502	68	311	123	4.94	13.5%	62.0%	24.5%
	男子	110	22	71	17	3.20	20.0%	64.5%	15.5%
	女子	392	46	240	106	5.43	11.7%	61.2%	27.0%
バレエ	総数	479	295	163	21	1.32	61.6%	34.0%	4.4%
	男子	106	89	16	1	0.28	84.0%	15.1%	0.9%
	女子	373	206	147	20	1.62	55.2%	39.4%	5.4%
演劇	総数	480	52	250	178	7.03	10.8%	52.1%	37.1%
	男子	106	27	56	23	3.96	25.5%	52.8%	21.7%
	女子	374	25	194	155	7.89	6.7%	51.9%	41.4%
歌舞伎	総数	494	364	129	1	0.36	73.7%	26.1%	0.2%
	男子	106	87	19	0	0.30	82.1%	17.9%	0.0%
	女子	388	277	110	1	0.37	71.4%	28.4%	0.3%
能・狂言	総数	494	351	141	2	0.41	71.1%	28.5%	0.4%
	男子	106	84	21	1	0.34	79.2%	19.8%	0.9%
	女子	388	267	120	1	0.44	68.8%	30.9%	0.3%

[表5] 芸術鑑賞経験値/ハード依存

	人数 (人)	鑑賞回数(人)			平均 (回)	比率(%)			
		0回	1~5回	6回以上		0回	1~5回	6回以上	
愛知県芸術劇場大ホール	総数	491	342	148	9	0.88	69.7%	30.1%	1.8%
	男子	113	95	18	0	0.19	84.1%	15.9%	0.0%
	女子	386	247	130	9	1.06	64.0%	33.7%	2.3%
愛知県芸術劇場コンサートホール	総数	498	333	148	17	0.96	66.9%	29.7%	3.4%
	男子	113	91	21	1	0.32	80.5%	18.6%	0.9%
	女子	385	242	127	16	1.15	62.9%	33.0%	4.2%
愛知県美術館	総数	473	272	189	12	0.95	57.5%	40.0%	2.5%
	男子	103	66	36	1	0.76	64.1%	35.0%	1.0%
	女子	370	206	153	11	1.00	55.7%	41.4%	3.0%
名古屋市美術館	総数	474	237	227	10	1.17	50.0%	47.9%	2.1%
	男子	103	53	47	3	1.25	51.5%	45.6%	2.9%
	女子	371	184	180	7	1.15	49.6%	48.5%	1.9%
ナゴヤドーム	総数	490	109	268	113	4.65	22.2%	54.7%	23.1%
	男子	115	19	54	42	6.32	16.5%	47.0%	36.5%
	女子	375	90	214	71	4.14	24.0%	57.1%	18.9%
映画 ※過去1年間の鑑賞	総数	490	31	272	187	6.69	6.3%	55.5%	38.2%
	男子	115	12	56	47	6.52	10.4%	48.7%	40.9%
	女子	375	19	216	140	6.74	5.1%	57.6%	37.3%
ライブハウス	総数	416	133	188	95	4.70	32.0%	45.2%	22.8%
	男子	97	32	42	23	4.84	33.0%	43.3%	23.7%
	女子	319	101	146	72	4.66	31.7%	45.8%	22.6%

[表6] ボランティアの経験

		総数	男子	女子
人数 (母集団)		444	101	343
経験値		331	65	266
比率		74.5%	64.4%	77.6%
内訳	清掃	210	43	167
	比率	63.4%	66.2%	62.8%
	慰問	93	12	81
	比率	28.1%	18.5%	30.5%
	募金	26	5	21
	比率	7.9%	7.7%	7.9%

※清掃＝地域の清掃（道路、公園、河川等）、ゴミ拾い、等

※慰問＝福祉施設（高齢者、児童等）への慰問、介護、演奏等

※募金＝赤い羽根、災害救援、歳末助け合い等

[表7] 習い事（現在を含む）

		全体	比率	男子	比率	女子	比率
芸術系	ピアノ	255	41.1%	22	3.5%	233	37.6%
	バレエ	39	6.3%	0	0.0%	39	6.3%
	お絵かき	46	7.4%	7	1.1%	39	6.3%
運動系	水泳	200	32.3%	41	6.6%	159	25.6%
	サッカー	16	2.6%	13	2.1%	3	0.5%
	野球	11	1.8%	11	1.8%	0	0.0%
教養系	習字書道	243	39.2%	45	7.3%	198	31.9%
	英会話	150	24.2%	33	5.3%	117	18.9%
	そろばん	65	10.5%	19	3.1%	46	7.4%
	その他	207	33.4%	48	7.7%	159	25.6%

[表8] 自分の子供に習わせたいこと

		全体	比率	男子	比率	女子	比率
芸術系	ピアノ	156	25.2%	31	5.0%	125	20.2%
	バレエ	33	5.3%	2	0.3%	31	5.0%
	お絵かき	21	3.4%	8	1.3%	13	2.1%
運動系	水泳	73	11.8%	14	2.3%	59	9.5%
	サッカー	28	4.5%	18	2.9%	10	1.6%
	野球	20	3.2%	12	1.9%	8	1.3%
教養系	習字書道	119	19.2%	24	3.9%	95	15.3%
	英会話	96	15.5%	17	2.7%	79	12.7%
	そろばん	24	3.9%	5	0.8%	19	3.1%
	その他	148	23.9%	38	6.1%	110	17.7%

[表9] 習った稽古事と鑑賞経験

	男子全体		女子全体		芸術系		運動系		教養系		
	人数 (人)	比率 (%)	人数 (人)	比率 (%)	人数 (人)	比率 (%)	人数 (人)	比率 (%)	人数 (人)	比率 (%)	
クラシック音楽	38	43.2%	236	72.8%	205	73.2%	4.89	63.4%	208	67.3%	4.37
ポピュラー音楽	44	50.0%	205	63.3%	174	62.1%	6.17	59.7%	184	59.5%	5.55
美術展	61	69.3%	258	79.6%	233	83.2%	4.57	75.5%	244	79.0%	4.59
バレエ	13	14.8%	121	37.3%	106	37.9%	1.54	32.9%	104	33.7%	1.22
演劇	54	61.4%	267	82.4%	230	82.1%	6.55	78.2%	241	78.0%	6.62
歌舞伎	10	11.4%	83	25.6%	70	25.0%	0.30	20.4%	70	22.7%	0.27
能・狂言	16	18.2%	92	28.4%	75	26.8%	0.34	26.9%	86	27.8%	0.34
愛知県芸術劇場六ホール	8	9.1%	100	30.9%	85	30.4%	0.77	31.0%	87	28.2%	0.95
愛知県芸術劇場コンサートホール	10	11.4%	103	31.8%	87	31.1%	0.86	31.0%	94	30.4%	1.05
愛知県美術館	24	27.3%	118	36.4%	100	35.7%	0.78	36.1%	113	36.6%	0.83
名古屋美術館	34	38.6%	140	43.2%	122	43.6%	1.04	39.8%	141	45.6%	1.09
ナゴヤドーム	68	77.3%	211	65.1%	185	66.1%	3.95	70.4%	210	68.0%	4.43
映画 ※過去1年間の鑑賞	74	84.1%	270	83.3%	234	83.6%	6.13	85.2%	261	84.5%	6.45
ライブハウス	51	58.0%	183	56.5%	164	58.6%	3.79	54.6%	174	56.3%	4.25
全ジャンル平均		41.0%		52.6%							

[表10] ピアノを習っていた学生 (総数 255)

		人数	比率	平均/回
自分の子供に	習わせたい	95	37.3%	
	習わせたくない	160	62.7%	
音楽への関心	あり	122	47.8%	
	なし	133	52.2%	
クラシック音楽鑑賞経験	0回	49	19.2%	0.20
	1～5回	138	54.1%	
	6回以上	52	20.4%	
愛知県芸術劇場大ホール	0回	153	60.0%	1.30
	1～5回	71	27.8%	
	6回以上	6	2.4%	
愛知県芸術劇場コンサートホール	0回	149	58.4%	1.11
	1～5回	70	27.5%	
	6回以上	10	3.9%	

[表11] ピアノを習っていなかった学生 (総数 365)

		人数	比率	平均/回
自分の子供に	習わせたい	61	16.7%	
	習わせたくない	304	83.3%	
音楽への関心	あり	138	37.8%	
	なし	227	62.2%	
クラシック音楽鑑賞経験	0回	79	21.6%	0.34
	1～5回	143	39.2%	
	6回以上	44	12.1%	
愛知県芸術劇場大ホール	0回	189	51.8%	1.55
	1～5回	77	21.1%	
	6回以上	4	1.1%	
愛知県芸術劇場コンサートホール	0回	184	50.4%	1.46
	1～5回	78	21.4%	
	6回以上	8	2.2%	

[表 12] お絵かきを習っていた学生 (総数 46)

		人数	比率	平均/回
自分の子供に	習わせたい	6	13.0%	
	習わせたくない	40	87.0%	
美術への関心	あり	11	23.9%	
	なし	35	76.1%	
美術鑑賞経験	0回	0	0.0%	0.17
	1～5回	26	56.5%	
	6回以上	14	30.4%	
愛知県美術館	0回	14	30.4%	0.69
	1～5回	19	41.3%	
	6回以上	4	8.7%	
名古屋市美術館	0回	12	26.1%	0.46
	1～5回	21	45.7%	
	6回以上	3	6.5%	

[表 13] お絵かきを習っていなかった学生 (総数 574)

		人数	比率	平均/回
自分の子供に	習わせたい	15	2.6%	
	習わせたくない	559	97.4%	
美術への関心	あり	100	17.4%	
	なし	474	82.6%	
美術鑑賞経験	0回	68	11.8%	0.26
	1～5回	285	49.7%	
	6回以上	109	19.0%	
愛知県美術館	0回	258	44.9%	1.51
	1～5回	170	29.6%	
	6回以上	8	1.4%	
名古屋市美術館	0回	225	39.2%	1.26
	1～5回	206	35.9%	
	6回以上	7	1.2%	